

## 地震災害を想定した災害図上訓練 (DIG)

荒 精一

1. 開催日時：平成19年8月22日8：45～10：20
2. 場 所：三里塚小学校 3F会議室
3. シニア参加者：20名
4. 講師：荒 精一、サポーター：細川康司、佐藤敏郎（和光技研）、長束亮平（和光技研）  
(敬称略)
5. 内容及び感想

### ◆10：45～11：10

災害図上訓練DIGとは、何なのかを説明し、今日は札幌で震度7の地震発生を仮定し各家庭から最寄の避難所へ非難してもらうという前提で「DIG (Disaster (災害) Imagination (想像力) Game (ゲーム))」を開始しました。

また、ゲームに先立ち受講者を3つのグループに分け、各テーブルにはファシリテーターの荒と和光技研から経験豊富なサポーター3名がテーブルマスターとして補助してもらいました。

#### (1) 災害図上訓練の条件

[発生直後]

- ①震度7の地震が発生しました！
- ②家は半壊状態で電気・ガス・水道がストップし、一先ず最寄りの避難場所へ行くことにしました。
- ③地震発生から5分後、防災用品の入ったバックを背にして1分間に50m程度の速度で避難場へ徒歩で向い始めました。
- ④災害の情報は防災用品の一つであるラジオから得ることができます。

[発生から10分経過]

- ⑤地震発生から10分後（避難開始から5分後）最初の情報が入ってきました。
- ⑥さらに地震発生から20分後（避難開始から15分後）に第2報が入ってきました。
- ⑦さて、皆さんは30分後に無事避難場所に着いているでしょうか？

[発生から30分経過]

- ⑧できるだけ広い道を通って避難してください。余震などで扉や自動販売機が倒れたり、ガラスが飛散したりすることから身を守るためです。
- ⑨一旦避難した場所が安全なのか、適当な広さが確保できるのかあるいは水や食料があるのか、良く考えてみてください。

### ◆11：10～12：20

以上の与条件にて、経過時間毎に封筒から情報の書かれたペーパーをくじ引きのように各自順番に引いていき、その情報を図上に文字あるいは絵にして書き込み、道路伝いに目的の避難所まで非難を行いました。

[発生から30分経過後]を終了し各テーブルの経過と結果について受講者から発表を行いました。



どこを通過して逃げようかな？ えっそこ火事で通行止め！



上手くいったこと、反省すること。多くのことが分かりました。

#### ◆感想

地図は、文字等を見やすくするためにできる限り大きいサイズでアウトプットしました。また、分かりやすくするために公園や避難所、幹線道路等には着色するなどして自宅の位置や避難中の自分の位置の確認をしやすいようにしました。そうすることで、より臨場感を高めることができたと思います。

受講者は、火事に囲まれたり、道路の通行止めにあたり、やむなく避難所の変更をしたりと徐々にゲームに集中していきました。その気になってゲームを楽しんでくれることが、結果として多くのことを学ぶこととなると思います。受講者の皆さんは、散歩がてらに避難路の確認をしておかねばと口々に言っていたことが印象として残ります。

—以上—